

「沖縄を元気にする農業ブランド」
“農商工連携具現化プロジェクト”第3回
活動報告

日 時:平成22年9月14日(火) 14:00~16:30
会 場:沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター(うるま市洲崎12-75)
参加者:15名
講 師:大塚 洋一郎 氏
(特定非営利活動法人 農商工連携サポートセンター代表理事)
コーディネーター:近藤 正隆 氏
(特定非営利活動法人ウヤギー沖縄 理事長)

平成22年9月14日(火)、沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターにて“農商工連携具現化プロジェクト”の第3回セミナーを実施いたしました。今回の会場は、農作物の加工設備があるということで、今後のプロジェクトの参考のために施設の見学を兼ねて、同施設にてセミナーを実施することとなりました。講師は前回同様、特定非営利活動法人 農商工連携サポートセンター代表理事 大塚洋一郎 氏で、より具体的な事業計画(5Pのビジネスモデル)を構築することを目標として、農商工連携プロジェクトメンバー16名が受講しました。



---セミナーの様子---

大塚先生は冒頭で、「5Pのビジネスモデル」を紹介しました。5Pのビジネスモデルとは、①プロダクト(商品)、②プライス(価格)、③プレイス(販路・流通)、④プロモーション(販売促進)、⑤パーソン1(誰に売るか)・パーソン2(誰が作るか)という、5つのPの項目であり、これを吟味し作成することで、しっかりした事業の評価を行うことができ、それから事業のスタートラインへ立つことが出来るとしました。ここで十分に時間をかけるのが大事であると、大塚先生は繰り返しました。



特に、④プロモーションについては、参加者全員になじみがないということで、Attention（注意）→ Interest（関心）→ Desire（欲求）→ Memory（記憶）→ Action（行動）という、消費行動の一連の流れ「AIDMA（アイドマ）の法則」を基に、どのように売り出すかというテーマを詳細にわたって解説しました。

大塚先生の解説の後に、参加者はそれぞれのグループに分かれて実際に5Pのビジネスモデルを作成する作業に入りました。作成した5Pのビジネスモデルはプロジェクト第4回にて各自が発表し、他の参加メンバーが評価することになりました。

